

第1分科会

イマドキの大学教育と「よい学び」 ～共創ワークショップでみつける 初年次教育・共通教育の課題と実践のヒント～

報告者

居神 浩（神戸国際大学 経済学部 教授）

松本 美奈（読売新聞 専門委員）

松尾 智晶（京都産業大学 共通教育推進機構 准教授）

久保 秀雄（京都産業大学 法学部 准教授）

コーディネーター

佐藤 賢一（京都産業大学 総合生命科学部 教授）

参加人数

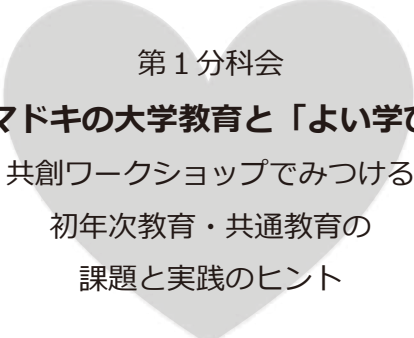
81名

表題のテーマ、特に「学生を動機づけ励まし、そして学生と共に学ぶこと」に焦点をあてた企画です。前半部では会場の全員が参加する共創ワークショップにより課題発掘をおこない、その結果を交わし合います。後半部では、登壇者からの事例報告と質疑応答・ディスカッションをおこない、参加者それぞれに新たな気づきや発想がうまれること、そして「変えてみよう／変えなければ」という気持ちが高まることを期待します。

〈第1分科会〉

イマドキの大学教育と「よい学び」

～共創ワークショップでみつける初年次教育・共通教育の課題と実践のヒント～



第1分科会

イマドキの大学教育と「よい学び」

共創ワークショップでみつける
初年次教育・共通教育の
課題と実践のヒント

01/35 2017/03/05 by Ken-ichi SATO


オープニング・セレモニー

- ・ 開始の鐘
- ・ ご挨拶、分科会の趣旨説明、今日の流れの説明
- ・ 分科会チーム（7名：話題提供者と運営協力者）の紹介

02/35 2017/03/05 by Ken-ichi SATO

本分科会の趣旨・構成・目標

03/35 2017/03/05 by Ken-ichi SATO



本分科会の趣旨

イマドキの大学における教職員目線での中心課題の一つは「イマドキの大学生（の学び）をどのようにして動機づけし、どのように励まし、そしてどのようにともに歩んでいくことがよいことなのか」ということではないか、と考えます。このように書き表わすと、わたしたちが学生であった少し前、あるいは昔、あるいは昔々もふくめて、大学と大学生にかかわる中心課題というのは、常にこのことを主な要素として含んでいる（た）と言えるかもしれません。ともあれ、この課題は「イマドキ」すなわち現在・現代にあって喫緊であり、この問題意識を共有する人びとの経験知を結集し、新たな知恵を探索・創造し実践していくことは、FD/SD課題として重要と考え、本分科会を企画しました。

04/35 2017/03/05 by Ken-ichi SATO

本分科会の構成と目標

午前の部では、まず本分科会のねらいと概要を共有します。つぎに登壇者4名（居神さん、松本さん、松尾さん、久保さん）とコーディネータから、参加者のみなさんへメッセージを投げかけます。そして、参加者全員による論点抽出のための質問づくり共創ワークショップ「ハテナソソ」をおこないます。出てきた論点・質問を共有して、午前の部を終了します。

午後の部では、登壇者それぞれからの問題提起・話題提供と午前のワークショップで出てきた論点・質問をふまえたディスカッションをおこないます。そして「イマドキの大学に学ぶ学生」に対して「私は何をしたいか、何をすべきか、何ができるか」を登壇者と参加者の全員で考えるワークをおこないます。

全員が、なにがしかのよいものを持ち帰ることができるように、
問いをよく問い、知恵をしぼり、磨き合ひましょう。
本日はよろしくお願ひいたします。

佐藤 賢一（コーディネータ）

05/35 2017/03/05 by Ken-ichi SATO

本分科会のワークフロー

06/35 2017/03/05 by Ken-ichi SATO

時間	内容
10:00-10:20	オープニング・セレモニー ・ 開始の鐘 ・ ご挨拶、分科会の趣旨説明、今日の流れの説明 ・ 分科会チーム（7名：話題提供者と運営協力者）の紹介
10:20-10:45	共創ワークショップ“ハテナソン” ステップ① 1人ワーク ・ ワークの説明：500字作文とはなにか？共創ワークショップとはなにか？ ・ 1人ワーク：500字作文（登壇者5人分）の黙読、質問づくり
10:45-11:10	共創ワークショップ“ハテナソン” ステップ② グループ形成 ・ グループング（3～4人）、自己紹介（グループ内） ・ 1人ワーク成果物の共有（グループ内）
11:10-11:40	共創ワークショップ“ハテナソン” ステップ③ グループワーク ・ 分類と変換（聞いた質問と閉じた質問） ・ 優先順位付け（質問する相手別に1つずつ選出する） ・ 質問の清書券A3紙（グループで1枚、グループ名記入）
11:40-12:00	共創ワークショップ“ハテナソン” ステップ④ ハイライト ・ 全員による質問清書シートの壁への貼り出し作業 ・ 全員による見回りと重要な質問への★印の記入 ・ 簡単な講評（佐藤）と午後の部のイントロダクション

07/35 2017/03/05 by Ken-ichi SATO

13:30-15:00	共創ワークショップ“ハテナソン” ステップ⑤ 話題提供・質疑応答 ・ 居神さん（20分）ご講演 ・ 松本さん（20分）同上 ・ 松尾さん（15分）同上 ・ 久保さん（15分）同上 ・ 全体ディスカッション
15:00-15:05	共創ワークショップ“ハテナソン” ステップ⑥ 1人ワーク again ・ 1人ワークの手引き：目的と方法 ・ 「イマドキの学生に私ができる、してみたい、しないといけない工夫」の作成（A4紙1枚）
15:05-15:10	（前倒し）クロージング・セレモニー ・ ご挨拶 ・ 残り時間の使い方（ネットワーク・カフェ）の説明 ・ 3つの質問と登壇者らによるコメントの共有と公開 ・ 分科会アンケート（事務局発）、追加質問の提出
15:10-15:30	共創ワークショップ“ハテナソン” ステップ⑦ ネットワーク・カフェ ・ 分科会チームと参加者の全員による「イマドキの学生に私ができる、してみたい、しないといけない工夫」共有 ・ 終了の鐘

08/35 2017/03/05 by Ken-ichi SATO

本分科会の話題提供者

09/35 2017/03/05 by Ken-ichi SATO

居神 浩さん
神戸国際大学・経済学部

松本 美奈さん
読売新聞東京本社／教育ネットワーク事務局

久保 秀雄さん
京都産業大学・法学部

松尾 智晶さん
京都産業大学・共通教育推進機構

10/35 2017/03/05 by Ken-ichi SATO

本分科会の運営協力者

11/35 2017/03/05 by Ken-ichi SATO

中沢 正江さん
京都産業大学・共通教育推進機構

山内 尚子さん
大谷 麻予さん
京都産業大学・教育支援研究開発センター

12/35 2017/03/05 by Ken-ichi SATO

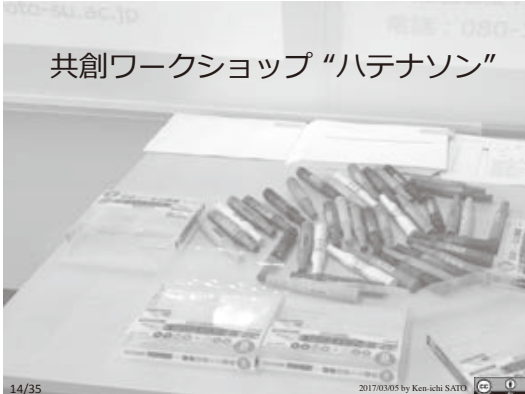
共創ワークショップ“ハテナソソ” ステップ① 1人ワーク

- ワークの説明：500字作文とはなにか？共創ワークショップとはなにか？
- 1人ワーク：500字作文（登壇者5人分）の黙読、質問づくり

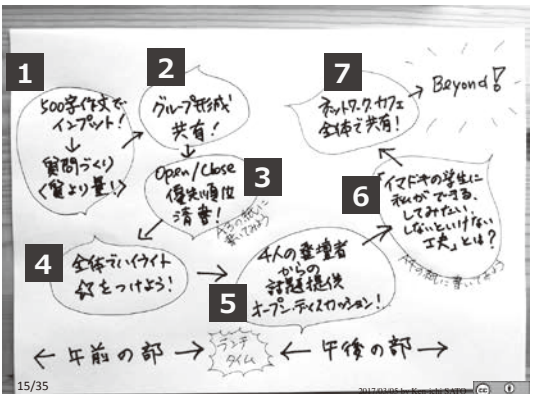


13/35 2017/03/05 by Ken-ichi SATO

共創ワークショップ“ハテナソソ”



14/35 2017/03/05 by Ken-ichi SATO



1 500字作文でインパクト！
質問づくり（量より量！）

2 グループ形成！共有！
Open/Close 優先順位 書き！

3 4人の登壇者からの話題提供
ホスト・ゲストの役割！

4 全体でハイライトをつくろう！

5 4人の登壇者からの話題提供
ホスト・ゲストの役割！

6 イマドキの学生に私ができる、してみたい、したい、いけない工夫とは？

7 初見クイズ 全体で共有！ Beyond!

← 午前の部 → 15分 → 午後の部 →

15/35 2017/03/05 by Ken-ichi SATO

500字作文 × 5

16/35 2017/03/05 by Ken-ichi SATO

第1分科会

イマドキの大学教育と「よい学び」

共創ワークショップでみつける
初年次教育・共通教育の課題と実践のヒント

これから大学に入ろうとする学生へのメッセージ 500字作文

2017.3.5

17/35 2017/03/05 by Ken-ichi SATO

500字作文の黙読

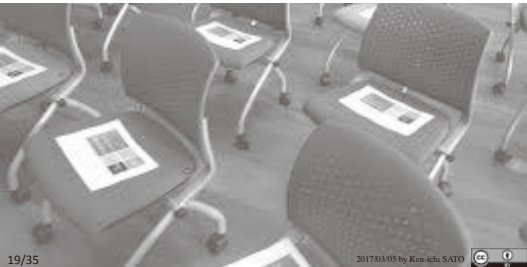
質問づくり



18/35 2017/03/05 by Ken-ichi SATO

共創ワークショップ“ハテナソン” ステップ② グループ形成

- ・ グループニング（3～4人）、自己紹介（グループ内）
- ・ 1人ワーク成果物の共有（グループ内）

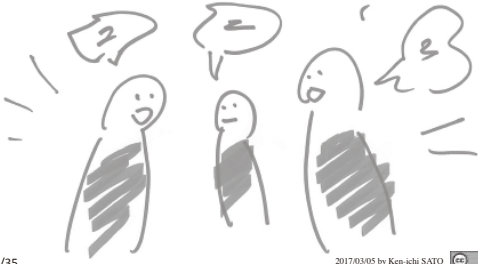


19/35 2017/03/05 by Ken-ichi SATO

グループニング

20/35 2017/03/05 by Ken-ichi SATO

自己紹介



21/35 2017/03/05 by Ken-ichi SATO


質問づくりの成果物共有



22/35 2017/03/05 by Ken-ichi SATO

共創ワークショップ“ハテナソン” ステップ③ グループワーク

- ・ 分類と変換（開いた質問と閉じた質問）
- ・ 優先順位付け（質問する相手別に1つずつ選出する）
- ・ 質問の清書@ A3紙（グループで1枚、グループ名記入）



23/35 2017/03/05 by Ken-ichi SATO

質問の分類と変換

質問の優先順位づけ

重要な質問の清書

24/35 2017/03/05 by Ken-ichi SATO

共創ワークショップ“ハテナソ” ステップ④ ハイライト

- ・ 全員による質問清書シートの壁への貼り出し作業
- ・ 全員による見回りと重要な質問への★印の記入
- ・ 簡単な講評（佐藤）と午後の部のイントロダクション



25/35

2017/03/05 by Ken-ichi SATO



グループ質問清書の貼り出し

質問ハイライト

講評

26/35

2017/03/05 by Ken-ichi SATO



午後の部

27/35

2017/03/05 by Ken-ichi SATO



共創ワークショップ“ハテナソ” ステップ⑤ 話題提供・質疑応答

- ・ 居神さん（20分）ご講演
- ・ 松本さん（20分）同上
- ・ 松尾さん（15分）同上
- ・ 久保さん（15分）同上
- ・ 全体ディスカッション

居神 浩さん

神戸国際大学・経済学部

話題提供

28/35

2017/03/05 by Ken-ichi SATO



共創ワークショップ“ハテナソ” ステップ⑤ 話題提供・質疑応答

- ・ 居神さん（20分）ご講演
- ・ 松本さん（20分）同上
- ・ 松尾さん（15分）同上
- ・ 久保さん（15分）同上
- ・ 全体ディスカッション

松本 美奈さん

読売新聞東京本社／教育ネットワーク事務局

話題提供

29/35

2017/03/05 by Ken-ichi SATO



共創ワークショップ“ハテナソ” ステップ⑤ 話題提供・質疑応答

- ・ 居神さん（20分）ご講演
- ・ 松本さん（20分）同上
- ・ 松尾さん（15分）同上
- ・ 久保さん（15分）同上
- ・ 全体ディスカッション

松尾 智晶さん

京都産業大学・共通教育推進機構

話題提供

30/35

2017/03/05 by Ken-ichi SATO



共創ワークショップ“ハテナソン” ステップ⑤ 話題提供・質疑応答

- ・ 居神さん (20分) ご講演
- ・ 松本さん (20分) 同上
- ・ 松尾さん (15分) 同上
- ・ 久保さん (15分) 同上
- ・ 全体ディスカッション

久保 秀雄さん

京都産業大学・法学部

話題提供

31/35

2017/03/05 by Ken-ichi SATO

共創ワークショップ“ハテナソン” ステップ⑥ 1人ワーク again

- ・ 1人ワークの手引き：目的と方法
- ・ 「イマドキの学生に私ができる、してみたい、しないといけない工夫」の作成 (A4紙1枚)



32/35

2017/03/05 by Ken-ichi SATO

1人ワーク again 5分間

- ・ 目的: 自分自身のイマドキの学生に対する『現時点』のスタンスを言語化する
- ・ 方法:
 - テーマ「イマドキの学生に私ができる、してみたい、しないといけない工夫」
 - テーマに沿った現時点の自分のアイデアを端的にA4一枚に大書する

33/35

2017/03/05 by Ken-ichi SATO

(前倒しの)クローージング・セレモニー

- ・ ご挨拶
- ・ 残り時間の使い方 (ネットワーク・カフェ) の説明
- ・ 3つの質問と登壇者らによるコメントの共有と公開
- ・ 分科会アンケート (事務局発)、追加質問の提出

34/35

2017/03/05 by Ken-ichi SATO

共創ワークショップ“ハテナソン” ステップ⑦ ネットワーク・カフェ

- ・ 分科会チームと参加者の全員による「イマドキの学生に私ができる、してみたい、しないといけない工夫」共有
- ・ 終了の鐘



35/35

2017/03/05 by Ken-ichi SATO

新入生の皆さんへ、今のうちに言っておきたいこと

自分でもよく分らないうちに大学に入ってきてしまっ
た人も結構いるかもしれませんが、せっかく大学に入っ
ておきたのですから、今のうちに大学教員として皆さんに
言っておきたいことを率直に伝えたいと思います。
皆さんは、小・中・高と12年間いるんことを学んでき
たはずなのですが、実は「大人の恩恵」とか「大人の事
情」で、「学んでおくべきなのに学べていないこと」「一
応学んではいけるのだけど、正しく学べていないこと」がた
くさんあります。
皆さんもあと5年もしたら「大人」になって、「恩恵」や
「事情」でなかなか自由に発言したり行動したりできなく
なるでしょうから、今のうちに自由に考えるための「技」
を身につけておいてほしいと思います。
その技を身につけるための第一歩として大事なものは、み
んなが「そつだ！」と言っていることに対して「そつでは
ないかもしれない」、さらには「そつではないはずだ！」
という「疑い」を持つことです。
そつという「疑い」を持つことは、「個人としての生き残
り」というよりは、「社会全体」「国全体」が生き残るた
めにどうしようも必要なことなのです。

居神 浩

新入生のみなさんへ

「大学」へ、ようこそ！
「大学生活」はあなたが自分を大切に身つめなおして自己
理解を深め、周囲の環境と自分との関係を考えながら安心
して意旨を言いあい活動する日々のごことです。あなたが多
かな大学生活を過ごされるよう、心から願っています。
私たちは、大学生活は大学生自身が履かだすものと考
えます。ある程度決められた「すべきこと」の枠組みはあ
りますが、大学で何を学び、何を体験するかはあなたが自身
が決めます。また、そうしなければ大学の価値は半
減するでしょう。
「大学」とは、何でしょうか。
私たちは、「新たな知を履かだすところ」だと捉えてい
ます。そのスタートは、まず自分が何を知識りたいのか、何
に興味があるのかに向き合うことです。知識を身につけた
上で芽生えた疑問から逃げず、調査や実験を何度も重ねて
検証し議論を楽しみながら、考えをまとめて新たな知を履
かだすのが大学です。考えて、試して、挑戦して、失敗し
て、成功して、発見する場です。
その中心には、考え行動するあなた自身があります。
私たちをとりまき世界に興味関心を持ち、考え行動して
何かを発見する知的興奮を、大学でともに楽しみましょう。
松尾 留晶

無題

教室の外で、大学の内外で、年齢などとは関係なく、
自分にとって「先生」の役割を果たす存在（芸術作品など
も含む）をたくさん見つけ出すことができるようになること、
世界がどんどん広がって「発見」がたくさんあるワクワクし
た毎日になるでしょう。
さらに、自分自身も誰かにとっての「先生」の役割を果
たせるような場面が増えたと、不思議なこと、ワクワク
感をもっと深く深く味わえるようになるはずですよ。
そんな「先生」をたくさん生み出すとしていているのが大
学だ、と私は考えています。皆さんも、教授や博士といっ
た社会的に「とんがって突き抜けている」と一定の評価を
受けている「先生」たちと触れ合いつつ（また時には反面
教師にいつつ?）、自分なりに専門とする得意分野を新た
に開拓（既存の学問に囚われず!）していきけるような力を
養ってくれれば、と強く願っています。誰でも皆、局所的
であつてもどこかで、「出藍の誉れ」を実現できるのです
から。あなたから何を学べるようになるのか、私はとても
楽しみです。

久保 秀雄

学生たちへのメッセージ

むかし、あるところに、おじいさんとおばあさんが住ん
でいました。ふたりは、いちわのひよこを、たいせつにた
いせつにそだてておりました。なんと、ひよこの足は金のあ
りでした。
それを知った王さまはいました。「なに、金のあしの
ひよこじゃ。それをわたしによこせといえ。いやというな
ら、あいつはほん、きりとりとてくるのじゃ」。
ひよこは、王さまにたあしとられて、そのままだんだ
んおおきくなりました。でも、まだひよこは、ひよこ。
ある日、ひよこがいました。
「おいら、王さまのしろへいってくる。かたあし、とり
ちどしにいつてくる」――。
絵本「かたあしのひよこ」（水谷三三・文、いとうろし・絵）
鋭い爪やくちばしがなく、高く飛べたり速く走れたりす
るわけでもないひよこが、なぜ強大な軍隊を持つ王
さまに立ち向かおうと思ったのか。次々に困難がひよこに
襲いかかってきて、ひよこは前に進む。なぜなのだろう。
筆者は、近所の小学校で16年間、読み聞かせをしている。
この絵本は、どの学年にも受ける。初めは興味なさそうに
背を向ける子でも、気づくと筆者のひよこ元気にしり高っ
てる。子どもたちはなぜこの絵本にひかれるのだろう。
松本 美奈

第1分科会

イマドキの大学教育と「よい学び」

共創ワークショップでみつける

初年次教育・共通教育の

課題と実践のヒント

これから大学に入学する学生への

メッセージ 500字作文

2017.3.5.

好奇心をもつこと、好奇心を育てつづけること。
質問をすること、質問を育てつづけること。

いま、私がカバンの中に入れて持ち運び、少しずつ読ん
でいる本に次のことが書かれています。
『私たちは、好奇心がもてないと人の話を聞くことができ
ません。また、好奇心がもてないと、偏見のない受け入
れやすい状態も保つことができません。そして、好奇心が
もてないと質問をすることもありません。要するに、好
心かもてないと私たちは、一方的に伝え、評価を下し、批
判し、責め、そして辱めてしまっただけなのです。』
「好奇心のパワー」（タババー&スライキンス、吉田新一郎 訳）
私は心から同意します。
私たちはみな、学校に通いはじめればより前も前の幼少期に
は、山ほどの好奇心と、そしてとてもたくあふれ出る質問
でできたカタマリだった。それが、成長してオトナとなる
につれて何か起こったのだろうか、好奇心も質問もすっか
り姿を消してしまっただけ。いや、少しは残っているかもしれ
ない。残っていてほしいと思う。
これから大学という場が学ぶ君たちに、考えてほしいこ
とがある。自分たちの好奇心と質問は、いまだなんでも
あるかを。そして、それらを失うことにならず、育てつづ
けるにはどうしたら良いのかということ。

佐藤 賢一

グループ1:

① (50%出席) 学生に期待するところ、大学4年間で

どこで実現するのか?

② 学生にどうやって好奇心を持たせるか?
(不本意入学、興味喪失の防止、質問力など)

③ FD意欲の低い抵抗勢力をどう巻き

込んでいくか? (AL, PBL等)

05.05.K

2. よい学びの「よい」とは?

「とんがって突っ張っている先生」でも、学生に興味
無い先生、教育者で済むか?

自己→他者→社会へ目を向けにくく流
れをどう作るのか?

05.05.K

3 グループ

● 教育の現場で、教員が「教える」主体から
「学び」主体に回復(事象)の役割は何か?

● 大学生活において好奇心(学意欲)が持てない
のは何故か? (理由や背景)

● 正しい学びたいとはどのよう状況?

05.05.K

4. ① どのように知的好奇心

を持たせるか?

② 初年次科目と専門

科目との重機付けを

どのようにするか?

③ 学生の能力の違いを
どのように埋めるのか?

05.05.K

- ⑤ 新入生に好奇心を
1. どのくらい興味を持てるのか？
 2. 学問的な好奇心をどう育てるのか？
 3. 学問的思考のスタイルを身につける上で現在の初年次教育は機能しているか？

あゆみ

- 7
- ① 学生にとって、大学が果敢役割とは何か？
 - ② 学生に対して何を伝えるべきか？
 - ③ 学生の求めているものに対して答えていけるのか？

あゆみ

- 第6グループ
- ① 大学で何成したいか？
 - ② あなたの考える大人・社会人とは？
 - ③ 大学に何を期待しているか？ (塾・保護者)

あゆみ

- 8
- なぜ大学に進学したのですか？
 - 不本意入学？ やりたかった事があるから入学したのでは？
 - なぜ疑いを抱いたから、1課問題を見つけられぬのか？
 - 教員はどのようにサポートすべきか？
 - GPAとCAP制などは学生の自主性に影響を与えていますか？

9

- 個人のもつ「疑い」が個人にではなく「社会全体、国全体」のために必要と提示され、入学生はどの方向に何を考えるだろうか？
- なぜ「質問」を「まなこ」にするのか？ 志かけがあるのか？
- 「先生」とはどんな役割なのか？

us
@ ok

11

- ① これらのメッセージの新入生は、先生の理想とする新入生ではないですか？
- ② 自分がこの「まよこ」のようになれないと知られた子どもをどう評価しますか？
- ③ 自由に考えるための「枝」は何なのか？ 疑いを持つことで、どうして得られるのか？

10

- 「コミュニティ」を「志す」として学生を「授業」の中でどのように「対話」しているのか？
- 「777」は「7」の学生を「通過」するとはどのような「交換」が行われているのか？
- 「学生」とは何だろうか？

us
ok

12

- 学生の好奇心を刺激し、持ち続けたらいいのだろうか？
- 学生に「気付かせる」にはどうすればいいのだろうか？
- 学生の疑問をつなげていく良いアイデアはありますか？ (ネット検索で「満足」)

14 ⑬ 学生の成人能力の低下を止められるのか？
 社会では同質性を求められ
 就職時の自己分析では個性を求められる
 のよは状況をどのように考えるか？
 学生が好奇心を持ち続けるための
 毛手バニオンとほるものを
 大学はどのように促進できるか？

13 G ⑭ 女子の好奇心を学びに結びつけるには？
 女子同一大ギヤップをどう埋めるか？
 ⑮ 大学で学ぶってなに？
 意味とは？

16 ⑯ 1. 学生は好奇心を失っているか。
 「大人」大人・オトナとは何か。
 大学における「よい学び」とは何か。
 大学における「よい学び」とは何か。???

15 ⑰ グループ
 ① 好奇心もよび起こすために、我々が出来るきっかけづくり(知的)
 ② 人は、なぜ困難に立ちむかえるのか？
 ③ 講義型(知識伝達型)の授業は、今後、どうあるべきか。

17

興味・関心の高い学生に対し、具体的にどのような支援がよいか
 ① 学生の学びの自由度を高め、確保している
 よいので、自由な学びを推進している
 ② 現実、に良いと持っているようにするために
 どうすればよいか

18

・ 初年次教育で何を教えるべきか。
 学生をひきつける初年次教育とは何か。
 「よい学び」とは何か。小中高の学びとは、どのよう異なるのか。
 ・ イマドキの学生は、好奇心を持っているのか。持っているのか。

19

消極的な学生に対して興味や好奇心を
 持つようにするには、どのように支援すべきか
 ・ 基礎・基本が十分な学生に対して、どのように「アクティブラーニング」をすすめるか
 ・ 学問として「疑い」をもたせようにはどうすべきか

20

目的がよく入学した学生をいかに動機づけられるか
 ・ 教員と学生の想う大学生活の違いは？
 ・ 小規模校・大規模校での初年次教育の違いは？

21

- ◎高校までの教育と大学での教育は何か違うのか？
- ◎学生の多様性に合わせて大学の質を高めるのか？
- ◎大学教員にFDを実質的に義務づけるか？

21

22

- ◎好奇心を持ちたいと思いませんか？
- ◎なめですか？なぜにめですか？
- ◎イマドキの先生って、どうなんですか？
- ◎大学教員とこれなれば、
- ◎言いたい放題ありますか？
- ◎どのように違いますか？

22

以上、参加者90名と登壇者4名、22グループによる質問づくりの成果物です
 (カラー刷りでないのが残念！)。みなさん、ご自分のグループ番号を覚えてい
 らっしゃいますか？

イマドキの大学教育と「よい学び」(論点提起)

神戸国際大学 経済学部 教授 居神 浩

イマドキの大学教育と「よい学び」 (論点提起)

大学コンソーシアム京都第22回FDフォーラム
第1分科会

2017年3月5日

神戸国際大学経済学部
居神 浩

全体の構成

- 1. 「イマドキの大学生像」(現場感覚の)
- 2. 高校までの「学び」の問題
- 3. 大学での学びへの「期待」
- 4. 「よい学び」とは
- 5. 「ハテナソン」でのメッセージ

1. 「イマドキの大学生像」

- 「反学校」的ではない
- 「脱学校」的でもない
- 「疑似達成主義」(学習内容の理解という達成ではなく、授業に出席したことだけをもって達成と認識してしまう心性)の深化

* 遠藤竜馬(2006)「変容する達成主義社会のなかの非選抜型大学—予備的考察と現状分析」『神戸国際大学経済文化研究所年報』第15巻

2. 高校までの「学び」の問題

- 教室に存在することが評価の大前提?
- ひたすら「穴埋め」あるいは「写経」?
- 出されたことのない「宿題」(学校外課題)
- 非選抜型大学受験組への「ほどほど指導」?

3. 大学の学びへの「期待」

- 出席だけ(に最大の重みづけ)で評価してほしい!
* 文科省指導で「出席点評価」はNGワード
- 「ガチの評価」(ダメ出し)への恐れ
- 「答え」はすべてスマホの中!
- 学習内容の「有意味性」への期待はある(当事者性、自己肯定感につながるテーマ)

4. 「よい学び」とは? («ガチな大学教員」が考える)

- 「当事者性」のあるテーマの設定
例)「ブラック企業」「シューカツ」「年金」など
- スマホの中に「すべての答え」はない!
- 「唯一絶対の正解」もない!

「よい学び」とは(承前)

- 自分にとって意味のある「問い」を立てよう!
- 「So What?」に耐えよう!
- 自分たちが生きている社会・世界の「カラクリ」を知ることの大切さ
- 不当なカラクリへ「異議申し立て」する勇気を持つことの大切さ

「よい学び」とは(承前)

- 「自分の性格」は変える必要はない
(「コミュニケーション能力」重視の世の中の怖さ・・・)
 - 「物事を見る角度」(「認識の準拠枠組み」)を柔軟に変えてみよう!
- * ジャック・メジローの「変容的学習論」

5. 「ハテナソン」でのメッセージ

- 「突っ込みどころ」満載なメッセージ
- たくさんの「問い」が立てられるように
- 自分の専門領域からの「問い」と「答え」が提示できるように

新入生の皆さんへ、今のうちに 言っておきたいこと

- 自分でもよく分からないうちに大学に入ってきてしまった人も結構いるかもしれませんが、せっかく大学に入ってもらったのですから、今のうちに大学教員として皆さんに言っておきたいことを率直に伝えたいと思います。

- 皆さんは、小・中・高と12年間いろんなことを学んできたはずなのですが、実は「大人の思惑」とか「大人の事情」で、「学んでおくべきなのに学べていないこと」「一応学んではいるのだけど、正しく学べていないこと」がたくさんあります。
- 皆さんもあと5年もしたら「大人」になって、「思惑」や「事情」でなかなか自由に発言したり行動したりできなくなるでしょうから、今のうちに自由に考えるための「技」を身につけておいてほしいと思います。

- その技を身につけるための第一歩として大事なものは、みんなが「そうだ!」と言っていることに対して「そうではないかもしれない」、さらには「そうではないはずだ!」という「疑い」を持つことです。
- そういう「疑い」を持つことは、「個人としての生き残り」というよりは、「社会全体」「国全体」が生き残るためにどうしても必要なことなのです。

大学の授業での展開例

- 時事ネタで一つ(大学入試の面接でよく聞かれる「最近のニュースで気になったこととそれに対する自分の意見を述べてください」)
- 英語コンプレックスを構造的に生産している日本の外国語教育への疑問(これも面接で「苦手な科目は何ですか?」「英語です」と答える受験生の多いこと..)

「10番目の人間」というルール

問題はほとんどの人間が信じてくれないことだ、ことが起きるまで。愚かさや弱さとは違う、人間の特質だ。

そこで我々は方針を変えた。

「10番目の人間」というルールだ。もし仲間のうち9人が同じ情報をみて全く同じ結論に行き着いた時、10番目の人間はそれに反する論証をする義務がある。どんなに奇抜に思えても10番目の人間は他の9人が間違っているという仮説を探らなくてはならない。- ワールド・ウォーZ / World War Z (2013)

cf: 「12人の怒れる男」

例えば、昨年のアメリカ大統領選

- トランプが大統領になることを予想していたのは...
- ①ロサンゼルスタイムズと南カリフォルニア大学の合同調査チーム
- ②マイケル・ムーア
「ドナルド・トランプが大統領になる5つの理由」

この3人の中で一番「悪人」は誰でしょう？



「反知性主義」に陥らないために

- ネット時代の情報リテラシー
→自分が興味ある・共感する情報・意見だけに偏る傾向に
- あえて自分が興味ない情報、共感できない意見を探してみよう
→何か新しい発見はあったか?
→自分が信じてきたことに? がついたことはなかったか?

「英語」って本当に必要なの？

- 小学校の英語教育、2020年から「小学3年生から必修化」、「小学5年生から教科化」(2008年度から、小学校の英語教育はスタート)
- でも何のため?
「コミュニケーション能力の素地を養う」のが目的?

日本人最高の英語コミュニケーターは



英語の必要性に関する社会統計に基づいた冷静な議論が必要！

- 寺沢拓敬『「日本人と英語」の社会学』

「日本人と英語」に関する俗説

- ①「日本人は英語下手」
- ②「これからの社会人に英語は不可欠」
- ③「英語ができれば収入が増える」
- ④「日本人女性は英語が大好き」。

今の英語教育に欠けているもの

- 「国家戦略的」視点
- 日本の「国益」に資するための「言語政策」
- 「武器としての言語」という考え方
- 「コミュニケーション」ではなく「ネゴシエーション」！

英語コンプレックスの学生たちへ

- 英語ネイティブのようにしゃべる必要はまったくない！
→それより日本語のレベルを高めよう！
- パスポートを持って、知らない国に行ってみよう！
→テレビやYou Tubeとは違う目線で外の世界を試してみるの大切さ

ハテナソン参加者からの「問い」

- 自己→他者→社会へと目を向けていく流れをどうつくるのか？
- なぜ疑いを持たなかったり課題を見つけれないのか？
- 個人の持つ「疑い」が個人ではなく、「社会全体」「国全体」のために必要と提示されて入学生はどのようなことを考えるのか？
- 自由に考えるための「技」は何なのか？ 疑いを持つことでどうして得られるのか

参加された方々へのメッセージ

- 大学教員が知らない・分からないことを学生たちに問いかけてみましょう！
- 「俺もよくわからんのだよ。みんなで調べて、俺に教えてくれ！」
- 話上手より「聞き上手」に

*** 「大学の實力」調査から ***

2人に1人が大学に入る時代。進学希望者にとって必要な情報とは何か、との観点に立ち、読売新聞は2008年、「大学の實力」調査を始めた。偏差値や知名度に頼らず、教育の中身で大学を選んでほしい。幸せをつかむ力を培える大学に出会ってほしい——そんな願いを込めて、各大学・学部の教育の特色、取り組み状況や、退学率、卒業率、就職率といったキャンパス生活に関する重要情報を集め、毎年、一覧表の紙面にして世に送り出している。

調査と取材を通して見えるのは大学の「混迷」ぶりであり、それに対して募る政財界の憤りだ。世界は目まぐるしく、加速度を増して変わっているのに、日本を背負える次世代を育てられていないではないか、と。現状を打開すべく国などは矢継ぎ早に大学側に改革を突きつけているが、中には首をかしげる内容のものもある。にもかかわらず、急速なグローバル化、少子化への経営上の対応にあえぐ大学は受け身に徹して抗おうとせず、右往左往することで一層、混迷に輪をかけているように見える。そうした下で懸念されるのは、いまの学生が育ってきた環境や能力についての正確な分析と、それに基づき打たれるべき手がなおざりにされているのではないか、ということだ。

*** 質問できない学生たち ***

<想定外の事態に遭遇したときに、そこに存在する問題を発見し、それを解決するための道筋を見定める能力が求められる>とは、2012年の中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向け」に盛り込まれた一節だ。中教審はすでにその4年前、体系的な教育課程や単位の実質化といった外形的な変化を大学に求めていた。続けて中身にまで踏み込んだ12年答申は、具体的な手法に「アクティブ・ラーニング」を掲げたのだ。何とか大学が変わってほしい、という思いが強くにじむ。

とはいうものの、なかなかこれは厄介だ。難題は前段の「問題を発見」にある。いま多くの大学教員が悩んでいるのが、学生の「質問力」ではないだろうか。全国の大学で授業を取材するが、事実、学生が活発に質問する姿を見ない。先日もある国立大学の工学部長が「質問を出させるまでに何日もかかる」と嘆いていた。「問うて学ぶ」のが学問。その基本ができていないのだから、「問題を発見」のハードルは低くないのだ。

では、学生たちはどこで「？」から離れるのだろうか。幼い頃は、口を開くと「どうして？」と周囲に質問をぶつけていたはずだ。成長の過程で質問する力を失ってしまったのなら、どの段階での教育に問題があったのだろうか。

社会は不条理に満ちており、生きていくためには「質問力」が欠かせない。不条理な現実に向けて「なぜ」と問い、自分は何をすべきなのかを考えることが、生きていくうえでの必携の武器だからだ。なのに、なぜ学生は質問をしないのか。背景、原因を探りつつ、質問力を養うための手だてを早急に講じて行かなくてはならないだろう。待ったなしのグローバル社会で、時間の猶予はそれほどないのだから。

「大規模」初年次教育科目の紹介と効果測定に関する話題提供

京都産業大学 共通教育推進機構 准教授 松尾 智晶

第22回 FDフォーラム 第1分科会
イマドキの大学教育と「よい学び〜共創ワークショップでみつける
初年次教育・共通教育の課題と実践のヒント〜

「大規模」初年次教育科目の紹介と効果測定に関する話題提供

京都産業大学
共通教育推進機構 准教授 松尾 智晶

【概要】

1. 初年次教育科目の教育目標及び授業構成
2. 初年次教育科目の効果を高めるための運営体制
3. 教育効果測定結果と問題提起

京都産業大学における初年次・共通教育科目

「自己発見と大学生活」 教育目標

・大学という環境を自分の「**アウェイ**」から「**ホーム**」にし、それを活かして自分自身にとって意義のある「4年間」を過ごす**方針を自ら立てる**、というマインドセットを獲得する

・**自己理解・他者理解**を深め、多様性を受け入れる態度を習得することにより自己肯定感を高める

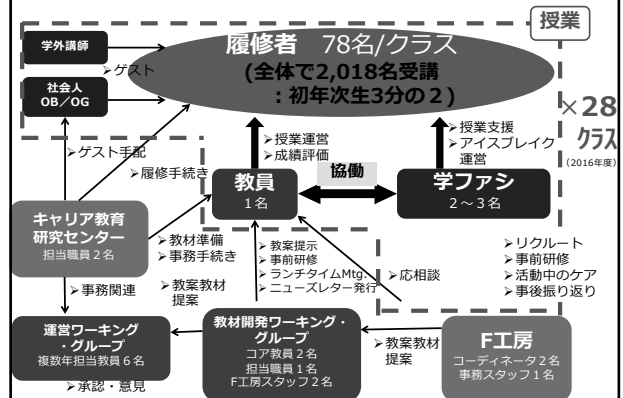
・大学はお互いの意見を相互尊重する場であり、論理的に**議論を展開**し新しい知を生み出す場だと理解する

・他者と協業し、一員としての役割を果たす楽しさを実感し、**チームワークに対する意欲**が向上する

「自己発見と大学生活」 授業構成

日	内容
1	オリエンテーション —自己表現とフィードバックでお互いを知りあう授業体験—
2	対話を通して知る自分 —私が人生で大切にしてきたことを省察する—
3	大学生活を調査する① —先輩に聞く大学生活の過ごし方 ポスターセッション形式—
4	大学生活を調査する② —先輩に聞く大学生活の学び方 座談会形式—
5	「大学生基礎レポート」を通して知る自分
6	社会人生活を調査する —社会人の先輩に聞く 大学と社会をむすぶ大学生活—
7	私が大学生活で産みたいもの —キャリア・インタビューレポートと自分の大学生活を発表する—
8~10	大学生活を産(む)ずぶ —グループワーク①~③— —「新生生にお勧めしたい大学生活の楽しみ方・過ごし方」ポスター発表準備—
11	大学生活を産(む)ずぶ —2クラス合同ポスター発表—
12	大学生活を産(む)ずぶ —活動の振り返り—
13・14	大学生活を産(む)ずぶ「私の大学生活」発表 —1分間スピーチ—
15	まとめと最終レポート

「自己発見と大学生活」 運営体制



学習成果実感調査「主体性」について

- ・「主体性」については、23項目を調査
- ・「何かしようとする時、それが出来るかどうかの不安」は軽減され、「人に頼らずできる」と思えるようになる一方で、「失敗しても頑張る」という気持ちが下がっている
- ・「自分から友達をつくるのが得意」と思えるようになる一方で、「友達になるのが難しければ諦める」という気持ちが高まっている

不安の軽減、自信をつける…は成果◎
困難に立ち向かう …は課題▲

問題提起

- ・初年次・共通教育科目は、**全学部の多様な**学生の大学教育の入口ゆえ、配慮が必要か
《大学教育の魅力を実感できる場 / 自分の方針がない・自主的学習活動ができない・人間関係が作れない自己に直面し不安になる場》
- ・「方針を自ら立てる」「議論を展開する」「チームワークに意欲をもつ」という教育目標の下、効力不安の軽減・自信の改善・友達作りの行動促進には成果が見られるが、**困難を避ける・失敗を恐れる傾向**を共通教育でどのように乗り越えれば良いか
《大人数講義の限界か? / 学部で対応すべき領域か?》
- ・「学習支援」、学生相互の関係性活用がヒント

跳ぶ教室 / 飛ぶ教室

—タルコット・パーソンズの理論を踏まえて—

京都産業大学 法学部 准教授 久保 秀雄

第22回FDフォーラム(2017年3月5日:京都府立大学)

跳ぶ教室/飛ぶ教室

—タルコット・パーソンズの理論を踏まえて—

久保 秀雄
(京都産業大学法学部・法社会学)

前提

- 日々の教育を、報告者がどのような方針で行っているのかを紹介
- 理論的裏付けとして、社会学の巨匠タルコット・パーソンズに準拠
…結論は、正統的周辺参加の理論と収斂する
- もしくは、素朴な経験談として参考になるものとして
村中李衣・赤堀方哉『跳ぶ教室』(教育出版、2004年)

I はじめに

- 大学は、単なる教育機関ではなく研究・教育機関である
- ささやかであっても、新たな知見を生みだし他者に教授すること
= コントリビューション(貢献・寄与)の実現に価値を置く
- 卒業研究に代表されるように、教育の次元でも同様

II 大学教育のねらい①

- 学生自身が、(ささやかながらも)新たな知見を生みだし他者に教授できるようになることが到達目標になる
☞ 学生であっても何らかの「先生」になろう！(500字作文の背景)
- 教員と学生は、「先生になる！」という志を同じくする同志の関係

III 大学教育のねらい②

- 対等でなくても、互いに「先生」となって教え合う(=学び合う)関係
- 大学は、ともに他者を育て合い、新たな未来を切り拓く場・集団
 - × 官僚制(上意下達の関係)や市場(売買の関係)
 - アソシエーション(同志の関係)

IV 事例

1) 学部専門教育の大講義科目

- ① 「なぜ契約違反が生じるのか？」について学術的な知見を講義
- ② 学生がブラックバイトの体験談(労働契約違反)に応用して考察
- ③ 優秀レポート&授業を補完する参考書として公開
= 学生には多大な刺激となる。教員には出来ない貢献

2) 学科共通の初年次教育科目(160名を4クラスに分割)

- 上回生をStudent Assistantとして育成し投入(1クラスに10名近く)

これもある種の研究成果

教員には出来ない貢献

- 「SAさんが一人一人の個人にあったアドバイスをしてくれるので自分の良いところを伸ばしながら自分の欠点を見つめなおし直すことが出来た」と好評
- (教員以上に)教育効果が高い局面が多く、教員が学ぶ点も多い
- それ以上に、SAとして「先生」の役割を果たす上回生の成長が大

V おわりに

- どの科目も同じ方針(「先生」になろう!)
で授業を実施し、かなりの手応えがある

- 原点となる児童文学の名作『飛ぶ教室』

- 大人と子どもがお互いに成長を促す姿

- 子どもの成長を促す大人も、子どもの助けを受け入れる大人も、カッコいい



